

# 「グリストラップ5分清掃」ビデオ資料のご案内

スマートフォンのQRコード読み取りアプリで読み取って Youtube 映像をご覧ください。

## 1. グリストラップを知ろう！ ビデオ

グリストラップが必要になった時代背景から、メンテナンスに関して「やるべきこと」「やってはいけないこと」に加え、油を排水になるべく流さない標準作業や心構えなどをご紹介しているビデオです。従業員教育用にご活用ください。



<https://youtu.be/ZPQpmR2t9F1>



## 2. グリストラップ清掃は5分で終わる！ 手順紹介ビデオ

油吸着材「エコソー」、専用すくいアミ「スクーパー」(※映像内では「すくってポイ」を使用)、残渣カゴ用水切りネット「ダスターネット」を使ったグリストラップ5分清掃の手順をご覧ください。



<https://youtu.be/cdZBtLv7qVo>

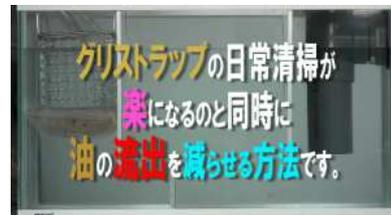


## 3. グリストラップ5分清掃 ノルヘキ改善実証実験！

グリストラップ模型を使い、水と油が流れる様子(グリストラップの構造)をご覧ください。  
残渣カゴの下にエコソー(ネット入)を設置して、直線的な水の流れを抑制しながら油をフィルター効果で吸着することにより第2槽以降に流れる油を劇的に減らし、ノルマルヘキサン数値対策(水質改善)に有効であることを証明した実証実験の映像です。



<https://youtu.be/bwTbBncU7nA>



## 4. 油吸着材エコソー性能紹介ビデオ

水を入れた2つのビンの片方に油を入れ、それぞれに油吸着材エコソーを入れて、「水は吸わず、油を瞬時に吸着する」性能をご覧ください。



<https://youtu.be/FFIYjr-pZMs>



## 5. スクーパー 取扱説明ビデオ

グリストラップ専用すくいアミ「スクーパー」の水切りネット装着と廃棄方法をご覧ください。



[https://youtu.be/R\\_CA3aHMnhc](https://youtu.be/R_CA3aHMnhc)



- ・ご使用上の注意
- ・性能および運用の効率的な確認方法

油吸着材エコツリーはグリストラップの油回収に最も適した資材ですが、お届けしたサンプルを単にグリストラップに投入するだけで良いというものではありません。

下記の内容をご確認のうえ、ご使用頂くことをお奨めいたします。

## ご使用上の注意

エコツリー ネット入りのサンプル1個でおおよそ1kgの油を吸着しますが、例えば、大量に油が溜まった状態のグリストラップにエコツリーを投入しても、あっという間に吸着限界に達して効果がはっきりしないまま終わりです。

また、ゴミやアク、固形化した油（ラードなど）が表面を覆った状態のグリストラップにエコツリーを投入しても“液状の油”ではないものは吸着しませんので、「まったく吸着しない」と判断されることもございます。

## エコツリーが吸着するもの

- ・液状の油

## エコツリーが吸着しないもの

- ・水
- ・ゴミ
- ・アク（白い泡状のもの。小麦粉や米を多く使用する業態に特に多い（洗剤の泡ではない））
- ・冷えて固形化した油（ラード）

## 効率的なサンプルのご使用手順

現場のグリストラップでエコツリーの性能と使用量をご確認頂くための方法をご紹介します。

- ① 自社または業者によるグリストラップの清掃の実施（業者清掃する予定があればその直後）  
（残渣カゴのゴミ、浮上油、底の汚泥がまったく無い状態で、出来れば槽内各部の汚れも落とした状態）
- ② 通常の1日の営業（作業）してグリストラップに溜まった油をエコツリーで回収。（1日分の油量の確認）  
エコツリーのネットを破って少量ずつ浮上油に撒いて吸着させて回収します。  
ここで確認するのは、エコツリーの使用量です。  
「どのくらいの量のエコツリーを使って1日分の油が回収できたか？」を確認してください。  
ネット入りの1/3なのか？ 半分なのか？ 1個なのか？

- ・1日分であれば少量の油なので、エコツリーが油を吸着する性能を確認して頂けます。
- ・軽作業で浮上油を回収出来るオペレーションを実感して頂けます。
- ・油と生ゴミの量に応じて回収頻度（清掃間隔）をご検討下さい。
- ・1日当たりの使用量が把握できますので、月や年間のランニングコストの目安が出来ます。

## 注意！

1日分の油量がエコツリー2個を超えるようであれば、調理作業の見直しや油を流さないオペレーション改善が必要と判断してください。

例1) 揚げカスの廃棄にあたり発火の恐れがあるので水道水で冷却している → 油が大量に流れ込む原因

改善例：揚げカスを絞って搾油して可燃ごみで廃棄すれば発火の危険を解消。

搾油した油はろ過して再利用または廃油として処理する。

例2) 食器や調理器具に付いた油をペーパータオルで拭いてから洗浄する。

例3) ウォーターフライヤーのメンテナンス時に油を流し出している量が多い。

## グリストラップは日々の“管理”が必要です。

重要な管理項目（手順）は、“油”と“生ごみ”を回収することで、これらの回収後に“清掃（洗浄）”という項目（手順）があると認識してください。（決してトイレ同様に闇雲にキレイにすれば良いものではないのです）

## ご使用後のエコツリーの処理について

各自治体の事業系廃棄物の分別に準じますので油を吸ったエコツリーは基本的には産廃です。

ただ、毎日の少量であれば可燃ごみに混ぜても大丈夫な自治体も多いですが、1週間や1カ月のまとまった量になると、回収業者や処分場では受け入れてもらえないため産廃での処理が必要になります。

詳細は、各自治体の担当窓口にて具体的に方法や量を説明して確認してください。